



ネット恋愛中毒 i

-はじめに-

ふかく、ふかく傷ついてしまったところ
現実では取り戻せない自分
すがりつくのは四角い画面

そこにみつけた自分の居場所
新しい自分
それから、一番遠くて一番近い存在

好きだった

それが
ゲームでも
嘘でも
なんでも

夢中になりたかった

でもやっぱり現実は違ってた

さよならをして

会った

それから...

ああ

いっそ

声が

渴れるまで

泣けたら

楽になれるかもしれないな

虚脱感

悲 愴感

なにもしたくない

みたくない

考えたくない

居場所がない

夢中になれることがない

この感じ

全部全部楽になりたい

それでも世界はくるりくるりと時を刻む

替玉を作って寂しさをまぎらわせる哀れな僕に

差し伸べられる手は暖かすぎて火傷しそうなくらいだ

「君はバカだと」

誰も責めない

こんな日常があったんだと今更気づく

少しずつ狂わされてた
彼を哀れだと思えるくらいに

少しずつ狂わされてた
私なら...と思えるくらいに

黒い箱を消してみた
君に伝わる君の思い出を消してたかったから

覚えた天井がキライ
暗闇に君の影が降りてくるから
文字を追って
影を消して
新しい光を見つけたい

れんあいゲーム

ほんと、ごめんなさいだな。

思ってもないこと言わないで
汚さないでよ
あやまるなら叫びなよ
その声が壊れて二度と誰も傷つけないように

ほら、今日もあなたに堕ちる可愛い子が
明日にはもっと可哀くなって
壊れていく様をあなたは楽しむんでしょ？

涙を流すと頭を撫でる掌を握って微笑むんでしょ？

またひとり、今日も可哀い子を見つける

わたしの足跡に

夢と現実

夢と現の間でさ迷う時間

まるで君と私を見ているようで疲れる

君は優しくて、何も知らず無邪気な笑顔を向けるから

本当を見失いそうになる

いっそ深い闇まで落ち込めたら夢が現になるだろうに

拒む躰が寝返りを打つ

君は易しくて、ありもしない言葉を吐き出すから

本当を見失いたくなる

いっそ深い闇まで落ち込めたら夢が現になるだろうに

拒む精神が気持ち悪い

夢ぐらい見させてよ
できれば心地いい夢にして

眠らせてよ
お伽噺でいいから

リアルなウソなんて必要ない

ぐっばい

やっと涙を流せたのは
夜になってから

頬で生ぬるい風を感じて
遠くに見える工場の光を見つけたとき

一筋

二筋

でもそれは何のなみだかわかんない

風にやられたのかも

得意の泣き芸かも

明日から遠い所に行ってきます
帰ってきたら

わたしにもどるよ

葛藤

手を伸ばせば届く距離

名前を呼べば振り向く距離

見上げる距離

そこには来てほしくないの

一期一会

「どうするの」
自分に問いかける

でも、「一期一会」 一生に一回。
大好きな君に会えるなら僕はその道を選ぶんじゃないかな。

吐息を感じる距離
見上げる距離に君は来るのかな。
私は何を求めるのかな
どんな顔で君に会って どんな顔でほほ笑むんだろう

隠していればわからないでしょ
心って正直だけど。
僕はうそつきだから。

ごめん

って言い飽きたね。
君には届かない言葉だけ
言葉にすると「本気」になるから 怒るでしょ？
わかってるよ

変な愛し方しかできないんだよね僕たちは。

そうだ

遊びに行くんだよね

うんうん

一生で一回の遊びだよね

うんうん

それが終わったら現実に帰ろう

勉強しよう

一生懸命に

私の世界で私の道を歩こう

交点

純粹に夜景を綺麗だと思えないのは

多分、君といるから

好きじゃないけど

嫌いじゃないよ

彼氏だけど

彼氏じゃないね

歪んでるね君は

歪んでるよ私も

矛盾同士の結合

初めから空集合

すこしのニュアンスで理解し合うの

ほら、簡単でしょ？

いちばん複雑なかたまり

変化量と i の交点は

「T38」

空に1番近い二次関数の頂点

すうしき

お揃いにしてたあの空の
色なんて忘れちゃったよ

なんて ウソ

分かるから解りたくなくて
ウソとホントの間を歩くの

それすら理解してて
辻褃合わせにまた語り合うの

感情なんてウソだからいい
ホントは怖いから欲しくない

でも求めるのは人がそんな生き物だから

届かないところで i を叫ぶの
どこかに吐き出したいから

何も知らない無垢な二人なら
繋がれたかもしれない

何も知らない無垢な二人なら
会えなかったかもしれない

矛盾同士の結合

初めから空集合

すこしのニュアンスで理解し合うの

ほら、簡単でしょ？

いちばん複雑なかたまり

答えは そう、

変化量と i の交点は存在しない

ふと

嬉しかった君を思い出すとなんだかおかしくて

幸せだったと思える自分がなんだかおかしくて

ふと、思い出す

そんな消せない記憶

さよなら、

今日は弟の入学式
アイツと色違いのスーツを着て隣にいる
この腕を掴んで歩いたんだなとか思ったら

笑えちゃうね

まるで恋人同士みたいに
嫌がらないアイツが悪い

「寂しがり屋だな。こゆとことか」

そうって赦すアイツが悪い
たまに交わすチャットはどうでもいい中身
飛ばさなければいいのに
自分が哀れになるのわかってる
一番上にいるアイツが悪い

記号に敏感になる
反応する私の目が
反応する私の耳が
アイツの奏でる音に似てるから

愛してる？

答えは NO これだけはハッキリ言える

愛なんて私を越えすぎているからわからない

ネット恋愛

みんな壊れてく

寂しくて、苦しくて、信じられなくて、怖くて

でもたった一言、彼が言葉をくれるだけで元気になる

一喜一憂

みんな同じ道を歩くんだよ

「そんなもんですよ」

私が放った言葉はすごく冷たいと思う

でもそれが現実

壊れたくないなら辞めてしまえ

99%壊れる恋だから

ひとり

街中でひとりになると

誰かにそばにいてほしくなる

うるさいくらい私に話しかけて

うざいくらい私につきま とってほしい

私が私を否定しないように

-さいごに-

出逢えてよかった



ネット恋愛中毒